

2018年9月27日

集中治療室に、過去に入院された患者さんへ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体及び通常の診療で得られる検査結果などの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)の規定により、研究内容の情報を公開し、研究対象となる方等が拒否できる機会を保障することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせ、拒否される場合などがありましたら、以下の連絡先・相談窓口へご照会ください。研究への診療情報の利用を拒否された場合も不利益を受けることはありませんし、患者さんが識別される情報の利用または他の研究機関への提供を停止します。また、この研究については、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得ています。

[研究課題名]

日本集中治療医学会データベースおよびDPCデータを用いた診療の質指標測定検証研究

[研究機関の長]

香川大学医学部長

[研究責任者名・所属]

菅原友道 集中治療部 助教
(この研究は、堺市立総合医療センターを主幹機関とする多施設共同研究として行います。)

[研究の目的]

集中治療室にいらっしゃった間に、様々な情報を電子データとして電子カルテに取り込んでいきます。例えば血圧、心拍数、白血球の数、治療に使った薬剤の種類や量、睡眠時間、体重や尿量などです。これらのデータと入院費や入院期間とを比較し、診療の質の向上を目指します。例えば、集中治療室にいる間にリハビリテーションを多く行ったほうが、退院までの時間が短くなることが知られています。そのような事柄を探り出し、数値化して、患者さん自身の生活の質の向上や国としての医療費の減少などを目指します。

[研究の方法]

2017年4月1日から2018年3月31日の間に当院の集中治療室に入室した患者さんを対象とします。

研究で利用する診療情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、入退院日、医療費
これらの情報を組み合わせて、例えばどういう病気がどういう治療をした結果、入院日数が何日で、医療費はどれくらいかかったということを調べ、解析して、入院日数の短縮や医療費の軽減に役立てます。

[外部への検体・診療情報の提供]

利用する本学所持の検体・診療情報等は、患者さん個人が特定できない状態とし、郵送及び電子システムを使用して、下記の研究組織へ提供します。

[研究組織]

堺市立総合医療センター 熊澤淳史
倉敷中央病院 岡本洋史
JA 広島総合病院 櫻谷正明
横浜市立みなと赤十字病院 武居哲洋
沖縄県立中部病院 中山泉
京都大学 松岡由典
兵庫県立尼崎総合医療センター 恒光健史

[研究代表者]

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの個人情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[連絡先・相談窓口]

香川県木田郡三木町池戸 1750-1

香川大学医学部附属病院集中治療部

担当医師 菅原友道

電話 087-898-5111